

1. 開催日時・出席者等

- 日時：平成 30 年 12 月 4 日（火）10:30～11:30
- 場所：中央合同庁舎 8 号館 10 階 平井国務大臣室
- Pitch テーマ：シン・ニホン AI×データ時代における日本の再生と人材育成
- 招へい者：安宅 和人 慶應義塾大学環境情報学部教授、ヤフー株式会社 CSO
- 出席者：平井国務大臣、左藤副大臣、河内内閣府次官、住田知財事務局長、川嶋知財事務局次長、神成副 CIO、二宮副 CIO、中野参事官（知財）、新田参事官（科技）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 安宅 慶應義塾大学教授/ヤフーCSO からの説明

- AI×データ戦争における成功要因には、①どこからでもビッグデータが取れて何にでも使えること、②データの圧倒的な処理能力・技術力・競争力、③質と量で世界レベルの人材がいること、の 3 つの要素があるが、日本は言語的な問題があり収集量で米中と勝負できておらず、データを利活用した事業を行おうにも規制が多い。また処理するための電気コストがとても高い上、データエンジニア・サイエンティスト等の人材は質も量も足りない。さらには、国としての R&D や高等教育への投資も足りない。
- 日本にもチャンスはある。産業革命のフェーズ 1 というべき立ち上げの段階では日本は鎖国しておらず参加すらしていなかったが、その後の技術の小型化や高度な応用というべきフェーズ 2、それを複雑に組みあわせるエコシステム構築、フェーズ 3、には成功してきた。データ×AIの世界でも、画像処理や音声処理などの「入り口」側の AI 技術は日本は負けているが、「出口」というべき大半の産業でプレゼンスを持つ日本には、始まりつつある応用・組み合わせのフェーズでチャンスがある。未来を生み出していくときに一つ鍵になるのは妄想力だが、日本はマンガなどでもわかるように妄想力は高い。これまでもそうであったようにスクラップ&ビルドで立ち上げられる。
- そのために必要な人材は、技術を持ちながらも夢を描き形にし、目に見えない価値を作る人。技術だけでもデザイン力だけでもない。日本では均等に万遍なくできる人材を育ててきたが、突き抜けた人材をどう育てるかが大事。また、これまでどおりの言語能力、問題解決能力に加えてデータ×AIリテラシーも必要。これは単なるプログラミングの問題ではなく、むしろデータサイエンス・数理能力が必要。ただ、教育はどうしても時間がかかるので、海外から才能を集めることもすぐに行うべき。さらには、国の予算は社会保障費に多くを投入しているが、そこから少しでも R&D や

大学、若者の教育等の未来への投資に回すべき。

3. 主な質疑応答・議論

- 突き抜けた人をどう育てるか、について議論があった。普通の学校教育のシステムからスピアウトしてきた若者のような人材が必要だが、通常のネットワークでは見つけれない。また、英語やプログラミングも、学校教育で行うと嫌いになる子供が出てくるが、まずは興味や関心が沸くような教育で、好きになる子供を増やすべきであり、逆に、学習が得意な子供には好きなだけ学ばせることが重要。
- 尖った才能を持つ人材の活用について、議論があった。日本人の特性として、一人では困難でも、グループワークであれば苦勞にも耐えられる。また、尖った才能を持つ人を万遍なくできる人が助けるチームプレーが大事。
- 社会保障費から未来への投資について、議論があった。社会保障の部分は、産業化を検討してみてもどうか。巨大市場であり、海外へ横展開もできるし、海外のスタートアップ企業にも参入してもらおうと良い。大学への投資については、日本の強さは国公立大学であり、地方大学は地域を支える優秀な人材を育成していることから、運営費交付金の削減は食い止めるべき。
- データセンターの電気代等のコストについて、議論があった。電気料金を下げる施策を打つしかないが、無理であれば太陽光発電なども考えられる。しかし、電力の安定供給の観点から課題があり、それも含めたエネルギー問題の解決は、人類の課題、まさにムーンショットである。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)